







年間授業計画

保谷 高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 地理歴史 科目 世界史探究

教科: 地理歴史 科目: 世界史探究 単位数: 4 単位

対象学年: 第2学年 1組～8組

教科担当者: (1・2組: 菅川) (3・4組: 菅川) (7・8組: 菅川)

使用教科書: 『詳説世界史 世界史探究(山川出版社)』、『アカデミア世界史(浜島書店)』、『詳説世界史 10分間テスト(山川出版社)』

教科: 地理歴史 の目標:

【知識及び技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる力

【思考力、判断力、表現力等】事象の意味や意義、相互の関連などや課題解決について多面的・多角的に考察し、考察したことを効果的に説明・議論する力

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度とともに、他国や他国の文化を尊重する大切さやその意義

科目 世界史探究 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地勢的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に於ける課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける力や、他国や他国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<b>【知識及び技能】</b> 古代文明と周辺地域の展開などの歴史的事象について、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 古代文明と周辺地域の展開などの歴史的事象についての諸資料を読みとくことを通して、歴史事象の特徴について多面的・多角的に考察・議論し、文章等で表現する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 古代文明と周辺地域の展開などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。	<b>【指導事項】</b> 序章 世界へのまなざし 第1部 諸地域の歴史的特質の形成 第1章 文明の成立と古代文明の特徴 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明 6 中央ユーラシアと東アジア世界 第2章 中央ユーラシア-草原とオアシスの世界 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 アラブの大征伐と形成 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開 <b>【教材・一人一台湾末の活用】</b>	<b>【知識・技能】</b> ○各地域の古代文明について、その共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。 ○西アジアと地中海周辺域の国家がどのように影響を及ぼし、どのような共通点をもっているかなどについて理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> ○古代文明の歴史的特質について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○各地域の古代文明の周辺地域の展開について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○各地域の古代文明の周辺地域の展開を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。	○	○	○	24
<b>【知識及び技能】</b> 西アジア世界とキリスト教とイスラーム教を基盤とした国家などの歴史的事象について、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 西アジア世界とキリスト教とイスラーム教を基盤とした国家などの歴史的事象についての諸資料を読みとくことを通して、歴史事象の特徴について多面的・多角的に考察・議論し、文章等で表現する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 西アジア世界とキリスト教とイスラーム教を基盤とした国家などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。	<b>【指導事項】</b> 第1部 諸地域の歴史的特質の形成 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ペルシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 1 アラブの大征伐とイスラーム教の成立 2 ヨーロッパ世界の形成 第6章 西アジア世界の展開と西アジアの動向 1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向 <b>【教材・一人一台湾末の活用】</b>	<b>【知識・技能】</b> ○西アジア世界と地中海周辺の共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。 ○キリスト教とイスラーム教を基盤とした国家がどのように影響を及ぼし、どのような共通点をもっているかなどについて理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> ○西アジア世界と地中海周辺域について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○イスラーム教を基盤とした国家について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○西アジア世界とキリスト教とイスラーム教を基盤とした国家などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。	○	○	○	28
<b>【知識及び技能】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、中世文化の発展などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、中世文化の発展などの歴史的事象についての諸資料を読みとくことを通して、歴史事象の特徴について多面的・多角的に考察・議論し、文章等で表現する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、中世文化の発展などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。	<b>【指導事項】</b> 第1部 諸地域の交流、再編 第7章 ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向 1 ヨーロッパの封建社会とその展開 2 ヨーロッパ世界の展開 3 ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国 <b>【教材・一人一台湾末の活用】</b>	<b>【知識・技能】</b> ○東アジア世界およびモンゴル帝国の共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。 ○ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、中世文化の発展などについて理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> ○ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、中世文化の発展などについて、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○東アジア世界およびモンゴル帝国について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、中世文化の発展などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。	○	○	○	26
<b>【知識及び技能】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、中世文化の発展などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、中世文化の発展などの歴史的事象についての諸資料を読みとくことを通して、歴史事象の特徴について多面的・多角的に考察・議論し、文章等で表現する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、中世文化の発展などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。	<b>【指導事項】</b> 第1部 諸地域の交流、再編 第9章 大交易・大交流の時代 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の発見 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域 <b>【教材・一人一台湾末の活用】</b>	<b>【知識・技能】</b> ○諸地域の交流、再編について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○アメリカ大陸やオスマン・ムガル帝国、清などの地域の交流、再編について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○諸地域の交流、再編におけるアメリカ大陸やオスマン・ムガル帝国、清などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。	○	○	○	32
<b>【知識及び技能】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、近世文化の発展などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、近世文化の発展などの歴史的事象についての諸資料を読みとくことを通して、歴史事象の特徴について多面的・多角的に考察・議論し、文章等で表現する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、近世文化の発展などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。	<b>【指導事項】</b> 第1部 諸地域の交流、再編 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 1 ヨーロッパ世界の展開 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想 <b>【教材・一人一台湾末の活用】</b>	<b>【知識・技能】</b> ○近世ヨーロッパ世界について周辺諸国の共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。 ○近世ヨーロッパ世界の動向について、ルネサンスや宗教改革による影響や共通点に着目して理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> ○近世ヨーロッパ世界における周辺諸国について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○近世ヨーロッパ世界の動向に関わるルネサンスや宗教改革について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○近世ヨーロッパ世界の動向をルネサンスや宗教改革、周辺諸国などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。	○	○	○	25
<b>【知識及び技能】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、近世文化の発展などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、近世文化の発展などの歴史的事象についての諸資料を読みとくことを通して、歴史事象の特徴について多面的・多角的に考察・議論し、文章等で表現する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、近世文化の発展などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。	<b>【指導事項】</b> 第1部 諸地域の交流、再編 第12章 近世ヨーロッパ世界の動向 1 ヨーロッパ世界の展開 2 産業革命と世界市場 <b>【教材・一人一台湾末の活用】</b>	<b>【知識・技能】</b> ○近世ヨーロッパ世界について周辺諸国の共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。 ○産業革命と世界市場の形成について、ルネサンスや宗教改革による影響や共通点に着目して理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> ○近世ヨーロッパ世界における周辺諸国について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○産業革命と世界市場の形成について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○近世ヨーロッパ世界の動向を産業革命と世界市場の形成を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。	○	○	○	1
<b>【知識及び技能】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、近世文化の発展などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、近世文化の発展などの歴史的事象についての諸資料を読みとくことを通して、歴史事象の特徴について多面的・多角的に考察・議論し、文章等で表現する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> ヨーロッパ世界の展開と東アジア世界の動向、近世文化の発展などの歴史的事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。	<b>【指導事項】</b> 第1部 諸地域の交流、再編 第13章 近世ヨーロッパ世界の動向 1 ヨーロッパ世界の展開 2 産業革命と世界市場 <b>【教材・一人一台湾末の活用】</b>	<b>【知識・技能】</b> ○近世ヨーロッパ世界について周辺諸国の共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。 ○産業革命と世界市場の形成について、ルネサンスや宗教改革による影響や共通点に着目して理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> ○近世ヨーロッパ世界における周辺諸国について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○産業革命と世界市場の形成について、自らの学習を振り返り、学びを深め、多面的・多角的に考察し、表現する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○近世ヨーロッパ世界の動向を産業革命と世界市場の形成を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。	○	○	○	1
						合計
						140

年間授業計画

保谷 高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 公民 科目 公共

教科: 公民 科目: 公共 単位数: 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組 ~ 8 組

教科担当者: (1組: 品田) (2組: 品田) (3組: 品田) (4組: 品田) (5組: 笹川) (6組: 笹川) (7組: 品田) (8組: 品田)

使用教科書: (公共 新訂版(実教出版))

教科 公民 の目標:

【知識及び技能】現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。

【思考力、判断力、表現力等】現実社会の諸課題の解決に向けて、多面的・多角的に考察し公正に判断している。

【学びに向かう力、人間性等】国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 公共 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、論理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
単元: 社会を作る私たち 【知識・技能】 ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解させる。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存	・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解させる。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存	【知識・技能】 ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存	○	○	○	4
単元: 人間としてよく生きる 【知識・技能】 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存	【知識・技能】 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存	○	○	○	6
単元: 民主国家における基本原理 【知識・技能】 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。 ・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基	【知識・技能】 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
単元: 他者とともに生きる 【知識・技能】 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存	【知識・技能】 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存	○	○	○	6
単元: 日本国憲法の基本的性格 【知識・技能】 ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解して	・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解して	【知識・技能】 ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解して	○	○	○	6
単元: 日本の政治機構と政治参加 【知識・技能】 ・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	【知識・技能】 ・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
単元: 現代の経済社会 【知識・技能】 ・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与	・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与	【知識・技能】 ・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与	○	○	○	8
単元: 日本経済の特質と国民生活 【知識・技能】 ・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与	・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与	【知識・技能】 ・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
単元: 国際政治の動向と課題 【知識・技能】 ・国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、相互に対等なものである主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり、国	・国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、相互に対等なものである主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり、国	【知識・技能】 ・国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、相互に対等なものである主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり、国	○	○	○	6
単元: 国際経済の動向と課題 【知識・技能】 ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存	・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存	【知識・技能】 ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存	○	○	○	7
定期考査			○	○		1
						合計
						70



年間授業計画

保谷 高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 数学

科目 数学B

教科: 数学 科目: 数学B 単位数: 2 単位  
 対象学年組: 第 2 学年 3・4 組 5 組  
 教科担当者: (34組: 谷藤) (5組: 谷藤)  
 使用教科書: (数研出版 高等学校数学B)

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を培う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測]についての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象・社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的に論拠に基づき判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	数列と一般項	数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	【知識・技能】 数列の定義、表記について理解している。 【思考・判断・表現】 数nの方からその規則性を推定して数列の一般項を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする。	○	○	○	4
	等差数列 等差数列の和 等比数列	数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	【知識・技能】 等差数列の公差、一般項を理解している。 【思考・判断・表現】 隣接する項の関係が考察できる。等差数列の和を求める方法を工夫できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 等差数列の和の公式を自ら導こうとする。	○	○	○	4
	定期考査1			○	○	○	1
	等比数列の和 和の記号 階差数列	数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	【知識・技能】 等比数列の和の公式を適切に利用して和を求めることができる。Σの計算ができる。階差数列を利用して一般項を求めることができる。 【思考・判断・表現】 等比数列の和を求める方法を工夫できる。数列の和を記号で表して簡単に計算する方法を工夫する。数列の規則性を発見する。 【主体的に学習に取り組む態度】 複利計算に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。階差数列に興味をもち考察しようとする。具体的な事象の考察に漸化式を積極的に活用しようとする。	○	○	○	5
	いろいろな数列の和 漸化式	数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	【知識・技能】 工夫をして和を求めることができる。漸化式から一般項を求めることができる。 【思考・判断・表現】 既知の漸化式に帰着させて複雑な漸化式を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 具体的な事象に漸化式を活用しようとする。	○	○	○	5
定期考査2			○	○	○	1	
2 学期	漸化式 数学的帰納法	数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	【知識・技能】 数学的帰納法を用いて命題を証明できる。 【思考・判断・表現】 数学的帰納法以外で、式の証明について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 いろいろな事象について、数学的帰納法で証明できるかどうか試みようとする。	○	○	○	10
	問題 章末問題	数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	【知識・技能】 数列について、3観点の総合力を養う。	○	○	○	4
	定期考査3			○	○	○	1
	確率変数と確率分布	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解する。 【思考・判断・表現】 試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 確率分布について積極的に考察しようとする。	○	○	○	5
	確率変数の期待値と分散 確率変数の和と積 二項分布	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 期待値、分散、標準偏差を求めることができる 和と積の期待値を求めることができる 【思考・判断・表現】 確率分布の特徴を考察することができる。 確率変数の和の期待値を、複雑な場合に応用する。 【主体的に学習に取り組む態度】 期待値、分散に関する公式を、既知の公式を用いて導こうとする。 確率変数の独立について注意を向けようとする。	○	○	○	8
定期考査4			○	○	○	1	
3 学期	確率変数の和と積 二項分布	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	【知識・技能】 独立な確率変数の積の期待値を求めることができる。 二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。 【思考・判断・表現】 具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 二項分布のグラフに関心をもち、調べてみようとする。	○	○	○	8
	正規分布 統計的な推測	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。母集団と標本、標本平均について理解し、仮説検定ができるようにする。	【知識・技能】 日常の身近な問題を統計処理するのに、正規分布を利用できる。 【思考・判断・表現】 正規分布を利用して現実のデータについて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々なデータについて考察しようとする。	○	○	○	12
	定期考査5			○	○	○	1
						合計	70

年間授業計画

保谷 高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 数学 科目 数学C

教科: 数学 科目: 数学C 単位数: 2 単位

対象学年組: 第2学年 1組~ 5組

教科担当者: (1,2組: 山口) (3,4組: 山口) (5組: 山口)

使用教科書: (数研出版 高等学校数学C)

教科 数学 の目標:

【知識及び技能】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。

科目 数学C の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトル、複素数平面と平面上の曲線についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとして粘り強く考え数学的に論拠に基づき判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	ベクトル ベクトルの演算	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示と演算ができるようにする。	【知識・技能】 ベクトルの定義や表し方を理解している。 ベクトルの演算ができる。 【思考・判断・表現】 ベクトルの定義を理解し、図示できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ベクトルの演算に興味を持ち、数式の演算との類似点を考察しようとする。	○	○	○	6
	ベクトルの成分 ベクトルの内積	ベクトルの内積とベクトルのなす角について考察できるようにする。	【知識・技能】 ベクトルの成分計算と内積の計算ができる。 【思考・判断・表現】 平行条件と垂直条件を活用して、等式の証明や図形の問題に活用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の量をベクトルを用いて表現しようとする。内積の性質を既習の知識を用いて証明しようとする。	○	○	○	6
	定期考査1			○	○	○	1
	位置ベクトル ベクトルの図形への応用 図形のベクトルによる表示	位置ベクトルについて理解し、図形の性質を調べるのに活用できるようにする。図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めることができる。	【知識・技能】 位置ベクトルの意味を理解し、内分点、外分点の位置ベクトル、3点が一直線上にあることを証明できる。 直線や円のベクトル表示ができる。 【思考・判断・表現】 位置ベクトルを活用して図形の性質が考察できる。 点Pの存在範囲を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。	○	○	○	6
	空間の点とベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。座標空間における点や図形について考察できるようにする。	【知識・技能】 点と点の距離、ベクトルの和と差、成分の計算ができる。 内積の計算ができる。ベクトルのなす角を求めることができる。 【思考・判断・表現】 空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で一通りに表される理由について説明できる。 ベクトルの垂直条件が活用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 平面上のベクトルの性質が空間でも成り立つことに興味をもつ。ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。	○	○	○	7
定期考査2			○	○	○	1	
2 学 期	ベクトルの図形への応用 座標空間における図形	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。座標空間における点や図形について考察できるようにする。	【知識・技能】 位置ベクトルの定義や内分点・外分点、重心などの位置ベクトルを理解している。球面の方程式を求めることができる。 【思考・判断・表現】 4点が同一平面上にある条件や一直線上にある条件について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。	○	○	○	8
	問題 章末問題	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。座標空間における点や図形について考察できるようにする。	【知識・技能】 基本問題について技能の習熟を図る。 【思考・判断・表現】 図形の問題にベクトルの考えを活用しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ベクトルの総合的な問題に取り組もうとする。	○	○	○	7
	定期考査3			○	○	○	1
	複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理 複素数と図形	複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。	【知識・技能】 複素数の絶対値、実数倍、和、積、商、共役複素数の性質、極形式、ド・モアブルの定理について理解している。 【思考・判断・表現】 複素数の図形的な意味について考察しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ド・モアブルの定理を自ら導こうとする。	○	○	○	12
	定期考査4			○	○	○	1
3 学 期	放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線の性質	2次曲線の定義や性質を理解し、問題の解決に活用できるようにする。		○	○	○	7
	曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式		【知識・技能】 複素数の方程式について、意味を考えたり計算などをして表す図形を求めることができる。 【思考・判断・表現】 点zと連動して動く点wが描く図形について考察したり説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 図形の問題を、複素数の演算の図形的な意味を用いて積極的に考察しようとする。	○	○	○	6
	定期考査5			○	○	○	1
				○	○	○	合計 70







年間授業計画

保谷 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当：(1～8組：大山・青木・三浦・指田・阿部・上島・遠藤)

使用教科書：( )

教科 保健体育

の目標：

【知識及び技能】 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解するとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解するとともに、技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。

【学びに向かう力、人間性等】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

科目 体育

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付ける。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断し、その解決を工夫する。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組むことや一人一人の思いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に楽しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	記時数
<p><b>A 球技「I ネット型(バレーボール)」</b></p> <p>【知識及び技能】 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ルールやマナーを大切に、協力して試合をすることができる。</p>	<p>・整理指導、準備体操、補強運動 ・パス、サーブ、アタック ・スキュラスト ・ゲーム ・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術的な名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法など、競技会の方針を理解するとともに、作戦や状況に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・仲間と連携した動きによって空いている場所を攻撃したり、空いている場所を作りだして攻撃したり、その攻撃に対応して守ることを中心に自己のチームや相手チームの特徴を捉えた作戦を立てて、ボールの操作とボールを持たないときの動きをすることができる。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組む工夫を工夫するとともに、自己やチームの考えなどを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・競技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、意欲的に貢献しようとするなど、一人一人の思いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い高め合うこととなることや、健康・安全を確保すること。</p>	○	○	○	12
<p><b>B 球技「I ネット型(バドミントン)」</b></p> <p>【知識及び技能】 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ルールやマナーを大切に、協力して試合をすることができる。動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・技を増やすために意欲的に取り組むことができる。 ・怪我がないようマナーを大切にすることができる。</p>	<p>・整理指導、準備体操、補強運動 ・ハイカリフ、ドライブ、ドロップ、スマッシュ ・サーブ ・スキュラスト ・リーグ戦 ・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術的な名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法など、競技会の方針を理解するとともに、作戦や状況に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・仲間と連携した動きによって空いている場所を攻撃したり、空いている場所を作りだして攻撃したり、その攻撃に対応して守ることを中心に自己のチームや相手チームの特徴を捉えた作戦を立てて、ボールの操作とボールを持たないときの動きをすることができる。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組む工夫を工夫するとともに、自己やチームの考えなどを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・競技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、意欲的に貢献しようとするなど、一人一人の思いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い高め合うこととなることや、健康・安全を確保すること。</p>	○	○	○	13
<p><b>C 球技「I ネット型(テニス)」</b></p> <p>【知識及び技能】 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ルールやマナーを大切に、協力して試合をすることができる。動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・技を増やすために意欲的に取り組むことができる。 ・怪我がないようマナーを大切にすることができる。</p>	<p>・整理指導、準備体操、補強運動 ・フォアハンド、バックハンド ・ストローク、ボレー、サーブ ・リーグ戦 ・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術的な名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法など、競技会の方針を理解するとともに、作戦や状況に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・仲間と連携した動きによって空いている場所を攻撃したり、空いている場所を作りだして攻撃したり、その攻撃に対応して守ることを中心に自己のチームや相手チームの特徴を捉えた作戦を立てて、ボールの操作とボールを持たないときの動きをすることができる。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組む工夫を工夫するとともに、自己やチームの考えなどを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・競技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、意欲的に貢献しようとするなど、一人一人の思いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い高め合うこととなることや、健康・安全を確保すること。</p>	○	○	○	16
<p><b>D 水泳</b></p> <p>【知識及び技能】 ・各種の動きのポイントを理解して、意識した動きを実践することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・記録更新に向けて意欲的に取り組むことができる。 ・ルールやマナーを大切にすることができる。</p>	<p>・整理指導、準備体操、補強運動 ・背泳ぎ ・バタフライ ・50m計測</p>	<p>【知識・技能】 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術的な名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法など、競技会の方針を理解するとともに、作戦や状況に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・仲間と連携した動きによって空いている場所を攻撃したり、空いている場所を作りだして攻撃したり、その攻撃に対応して守ることを中心に自己のチームや相手チームの特徴を捉えた作戦を立てて、ボールの操作とボールを持たないときの動きをすることができる。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組む工夫を工夫するとともに、自己やチームの考えなどを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・競技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、意欲的に貢献しようとするなど、一人一人の思いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い高め合うこととなることや、健康・安全を確保すること。</p>	○	○	○	14
<p><b>E 球技「II ネット型(サッカー)」</b></p> <p>【知識及び技能】 ・パスやドリブルなどのボール操作と仲間と連携して自陣から相手ゴール前へ侵入するなどの攻撃や、その動きに対応して守備のバランスのとれた攻守を展開することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ルールやマナーを大切に、協力して試合をすることができる。</p>	<p>・整理指導、準備体操、補強運動 ・キックドリブル、シュート ・ゲーム ・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術的な名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法など、競技会の方針を理解するとともに、作戦や状況に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・仲間と連携した動きによって空間への侵入などから攻防をすることができる。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組む工夫を工夫するとともに、自己やチームの考えなどを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・競技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、意欲的に貢献しようとするなど、一人一人の思いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い高め合うこととなることや、健康・安全を確保すること。</p>	○	○	○	16
<p><b>F 球技「II ネット型(バドミントン)」</b></p> <p>【知識及び技能】 ・ボールに対する安定したバット操作により出塁、進塁、得点の攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻守を展開することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ルールやマナーを大切に、協力して試合をすることができる。</p>	<p>・整理指導、準備体操、補強運動 ・キャッチボール、バッティング、ノック ・スキュラスト ・ゲーム ・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術的な名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法など、競技会の方針を理解するとともに、作戦や状況に応じた技術で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・仲間と連携した動きによって空間への侵入などから攻防をすることができる。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組む工夫を工夫するとともに、自己やチームの考えなどを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・競技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、意欲的に貢献しようとするなど、一人一人の思いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い高め合うこととなることや、健康・安全を確保すること。</p>	○	○	○	16
<p><b>G 陸上</b></p> <p>【知識及び技能】 ・自分のペースで走ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・相手のタイムを見て、ペースを伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・記録更新に向けて意欲的に取り組むことができる。 ・ルールやマナーを大切にすることができる。</p>	<p>・整理指導、準備体操、補強運動 ・30分間走 ・2000m走 ・3000m走</p>	<p>【知識・技能】 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・自己のペースを維持して、一定の距離を走り進め、タイムを短縮したり、競走たりできるようにする。 【思考・判断・表現】 ・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えなどを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止める。ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を重んじるとともに、一人一人の思いに応じた課題や目標を大切にしようとするなど、互いに助け合い高め合うこととなること、健康・安全を確保し、競技に楽しむ態度を養う。</p>	○	○	○	12

年間授業計画

保谷 高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 保健体育 科目 保健

教科: 保健体育 科目: 保健

単位数: 1 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組 ~ 8 組

教科担当者: (1組: 大山) (2組: 三浦) (3組: 上島) (4組: 青木) (5組: 三浦) (6組: 上島)

(7組: 大山) (8組: 青木)

使用教科書: ( )

教科 保健体育 の目標:

- 【知識及び技能】 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。
- 【学びに向かう力、人間性等】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

科目 保健 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 生涯を通じる健康について、自己や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、生涯を通じる健康について理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら健康やスポーツに関して課題を発見し、その解決を図る主体的かつ協働的な学習を進めることを学ばせる。	・思春期と健康 ・生活態度の変化と性行動の選択 ・結婚生活と健康 ・妊娠、出産と健康 ・家族計画 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学 期	A 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 生涯を通じる健康について、自己や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、生涯を通じる健康について理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら健康やスポーツに関して課題を発見し、その解決を図る主体的かつ協働的な学習を進めることを学ばせる。	・高齢と健康 ・高齢社会に対応した取り組み ・働くことと健康 ・労働災害の防止 ・働く人の健康づくり ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理を必要であることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	B 健康を支える環境づくり 【知識及び技能】 健康を支える環境づくりについて、自己や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、健康を支える環境づくりについて理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら健康やスポーツに関して課題を発見し、その解決を図る主体的かつ協働的な学習を進めることを学ばせる。	・食品の安全性と健康 ・食品の安全性を確保する取り組み ・保健制度とその活用 ・医療制度とその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・様々な保健活動や対策 ・誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	【知識・技能】 ・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生法は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。 ・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。また、医薬品は、有効性及び安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解している。 ・我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している。 ・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1











年間授業計画

保谷 高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科: 家庭 科目: 家庭基礎 単位数: 2 単位

対象学年組: 第2学年 1組～8組

教科担当者: (1組: 新倉・内藤) (2組: 新倉・内藤) (3組: 新倉・内藤) (4組: 新倉・内藤) (5組: 新倉・内藤) (6組: 新倉・内藤) (7組: 新倉・内藤) (8組: 新倉・内藤)

使用教科書: (新家庭基礎 気づく力 築く未来)

教科 家庭 の目標:  
 【知識及び技能】 人間の生活にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を深めるとともに、それらにかかわる技術を身につけるようにする。  
 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生活を見通して生活の課題を解決する力を養う。  
 【学びに向かう力、人間性等】 さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎	の目標:	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生活にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を深めるとともに、それらにかかわる技術を身につけるようにする。	生活を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定、解決策を構想し、実践を計画し、考察したことを実践に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返りや改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践しようとしている。		

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	A 単元: 日本の食文化の形成 【知識及び技能】 ・様々な郷土料理や行事食があることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本の食文化と気候風土の関係を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分や家族の食生活について意識的に改善する。	・日本や世界の食文化を通して各目的の食生活の問題点に気づく。 ・様々な郷土料理や行事食があることを理解する。 ・世界の発酵食品の特徴を学ぶ。 ・和食の文化に鑑賞して知り、外国からの評価を学ぶ。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・食の意義や役割、食生活を取り巻く環境などについて、現代の食生活の課題を理解できる。 【思考・判断・表現】 ・自身の食生活や現在の食生活の課題を発見し、課題解決のために学習、実践に向けての判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分自身の食生活について関心をもち、自分や家族の食生活について意識的に改善しようとする。	○	○	○	4
	B 単元: 食品の選び方と安全 【知識及び技能】 ・衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・調理実習において、作業の流れを判断しながら取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】 ・調理実習において、道具と協力して取り組む。	・食中毒に対する予防法を理解する。 ・食中毒対策「食中毒予防3原則」・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・食の摂取や調理の予防法をとらえることで、安全な食品や調理について理解している。 【思考・判断・表現】 ・調理施設や自宅でのキッチンなど予防法を具体的に考え、取り組むことができる。	○	○		4
	C 単元: 食事の計画と調理 【知識及び技能】 ・衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・調理実習において、作業の流れを判断しながら取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】 ・調理実習において、道具と協力して取り組む。	・調理実習(炊飯)(併食献立) ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・結婚、家族・家庭の多様化や、時代とともに変化する役割について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・現在の家族、家庭の在り方や役割について考えを深め、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・結婚、家族・家庭の形、役割について、自	○	○	○	6
	D 単元: 共に生きる家族 【知識及び技能】 ・結婚、家族、家庭の意義や機能について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・家族が抱える問題を解決し、家族を支える仕組みについて具体的に考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・話し合いを通して互いを理解し合う。	・「家族」の条件とは何かを考える。 ・グループで家族の条件や結婚について話し合いをする。	【知識・技能】 ・結婚、家族、家庭の多様化や、時代とともに変化する役割について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・現在の家族、家庭の在り方や役割について考えを深め、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・結婚、家族、家庭の形、役割について、自分とどのような関係性を持っているのか興味・関心を持つようとする。	○	○	○	4
	E 単元: 家族に関する法律 【知識及び技能】 ・家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・家族、家庭生活に関する法律について関心を持ち、家庭生活と法律との関係について理解する。	・家族に関する法律の資料を見ながら、考えをまとめて話し合う。・選択的夫婦別姓制度についてグループで話し合う。	【知識・技能】 ・家族に関する法律についての知識を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・家族、家庭生活に関する法律について関心を持ち、家庭生活と法律との関係について、理解しようとしている。		○	○	4
	F 単元: 子どもとは 【学びに向かう力、人間性等】 ・育児を学ぶ意義について理解する。	・次世代を担う子どもを育て、育んでいくことの責任感を養う。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもの世界について、自分の子どものころを思い出しながら興味・関心を持ち、子どもの生活について積極的に子どもと関わりながら理解しようとする。			○	4
定期考査			○	○		1	
2 学 期	A 単元: 栄養と食品のかわり 【知識及び技能】 ・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての知識を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の調理上の特性を知り、適切な調理を考える。	・自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素や、バランスの良い食生活について考える。	【知識・技能】 ・食品や栄養に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点を持って知識を深めようとしている。	○		○	6
	B 単元: これからの食生活を考える 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本の食料自給率を解決するためにできることを見つける。	・日本の食料自給率の現状と課題について考える。	【思考・判断・表現】 ・現在の日本の食生活についての課題を理解し、解決の方法について考えをまとめることができる。		○		2
	C 単元: 子どもの発達 【知識及び技能】 ・子どもの誕生、心身の発達と特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・子どもは親や身近な大人とのかわりあいの中で発達していることを理解する。	・子どもの発達について考える。 ・子どものからた成長の様子を学ぶ。	【知識・技能】 ・子ども心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・子どもの発達や育ちの環境について、課題を見つかり、解決への考えをまとめることができる。	○	○		6
	D 単元: 子どもの生活 【知識及び技能】 ・子どもの食生活、衣生活、遊びについて理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・子どもの食生活、衣生活、遊びについて学び、子どもに興味・関心を持つ。	・子どもの服や遊ぶ道具、食生活、衣生活、安全管理について学び、子どもと関わるようになる。	【知識・技能】 ・衣服の選び方、子どもの衣食住に関する物づくりなどの技術を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どものためのおもちゃ作りや、絵本の読み聞かせなどの実践活動に積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心を持つようとしている。			○	6
	E 単元: 子どもをほくむ 【知識及び技能】 ・子どもを生み、育てる意義について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・親子関係の課題を理解し、解決に向けてできることを考えることができる。	・親子関係に関する新聞記事などを読み、現代の親子にかかわる課題と解決の方向性を探る。	【知識・技能】 ・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもを取り巻く状況について、現状を知り、解決に向けて考えようとしている。	○		○	6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	A 単元: 衣服の選択と管理まで 【知識及び技能】 ・衣服や小物の製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 ・基礎縫いを学び実践することで、物づくりに興味・関心を持つことができる。	ペットボトルホルダーの製作	【知識・技能】 ・基礎縫いなどの縫製技術を身につけて、日常生活などの管理ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ペットボトルホルダー製作に積極的に取り組むことができる。	○		○	6
	B 単元: 衣服の選択と管理まで 【知識及び技能】 ・衣服表示の機能と意味を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・洗濯・漂白剤・防虫剤などの機能について理解し、衣服の機能に応じた適切な選択や保管ができる。	・衣服の適切な洗濯方法から保管などについて学び、自らの生活で実践する。	【知識・技能】 ・衣服材料の性能と特徴、衣服整理の科学的な知識を身につけることにより、衣服を適切に選択し、管理することができる。 【思考・判断・表現】 ・衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけて、実生活の衣服管理において、適切な判断ができる。	○	○		5
	C 単元: 消費行動と意思決定 【知識及び技能】 ・消費行動において、意思決定のプロセスが重要であることを認識する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・情報リテラシーを身につける大切さを理解する。	・主体的な消費行動について、多角的に考える。	【知識・技能】 ・消費行動について、様々な情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる。 【思考・判断・表現】 ・消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。	○	○		4
	D 単元: 消費生活の現状と課題 【知識及び技能】 ・契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 ・契約、多様な販売方法や支払い方法、問題解決の被害を未然に防止し、早期解決する方法を考える。	・契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 ・問題解決の被害を未然に防止し、早期解決する方法を考える。	【知識・技能】 ・消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・多様な販売方法や支払い方法について、問題点や解決策を考え、判断することができる。	○	○		4
	定期考査			○	○		1
	合計						70

## 令和8年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(2学年)

## 1 単位時間の時間 (50) 分

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	4	年間におけるガイダンス (年間を通じてのキャリア教育意識付け)	現在の進路状況、保谷高校の現状、将来のこと、今、何をすることが将来へつながるかを、進路の手引きを利用し、進路計画をしていく。	情報を収集しているか。また、進行状況、将来への展望につながっているかを感想、ワークシートから総合的に判断する	3
	5	世界探究 (問いをたてる)	修学旅行先である台湾に対して、イメージマップをもとに自分の興味を広げ、関心事からグループ共有や意見交換を経て自分の問いをつくる。	研究を通しての知識の正確さ、意欲的な活動、発表内容等から評価を判断する	4
	6	世界探究 (問いに対して、自分の答えを出す) ポスター作成	問いに対して、インターネットや文献を探して最後に自分なりに考えた答えを出す。ポスターを作成する。	ポスターが作成されているか、自分の考えが入っているか、その姿勢と意欲で判断する	4
	7	世界探究発表会	学年として興味関心ごとで分かれ、グループ発表を行う。ロイロノートを活用。意見交換、共有を行う。	研究を通しての知識の正確さ、意欲的な活動、ワークシートから評価を判断する	2
2	9	未来探究 (選択科目を考える)	選択科目説明会と合わせて、自分の将来に向けて考える。キャリアビジョンより選択科目を調べ計画する。	将来の目標と進路計画が現実的なものとなっているか、自己を正確に分析しているかを判断材料とする	4
	10	未来探究 (自分の興味・関心、進路先の学習、就職等を調べる)	主体的に進路研究を行い、自らのビジョンを明確な意識へつなげる 受験形態の研究、志望校の決定、受験日程表の作成により自ら進路計画を真剣に捉えさせ、キャリア意識を向上させる。	逆算ロードマップで計画をたてることができるか。逆算ポートフォリオで計画と振り返りを行えているか。志望の根拠を明確にできるか、完璧を目指すのではなく、意識を向けた文章であること、素材としての蓄積を目的とする。次年度へつながる分析が出来ているか否かで評価する	4
	11	世界探究 (振り返り)	修学旅行後の振り返りを行う。探究テーマに対して、行ってみてどうだったか、深めたポスターを作成する		4
		未来探究 (逆算ロードマップの作成)	ゴールから現在を考え、12月から高校卒業までの逆算ロードマップを作成する。		
	12	未来探究発表会	逆算ポートフォリオ発表会をクラス内で実施。全部ではなく一部のみをクラスで共有する。		2
3	1	未来探究 (逆算ポートフォリオの見直し)	志望理由書を書く (書く練習だけでなく志望理由をまとめることで本当に自分が志望しているのか、深い部分を見つめることによる進路再確認作業)		3
	2		模試の振り返りや志望理由書を通して、逆算ポートフォリオを改定していく。		3
	3		1年間の振り返り		2
配当時間数の合計					35